

第19回コブレンツ ギターフェスティバル2011

文・写真：テレーゼ・ワシリー・サバ
Thérèse Wassily Saba

翻訳：関塚亮司
Ryoji Sekizuka

ラッセル夫妻チャリティ・ゴルフと ラファエル・アギーレ

第19回コブレンツ国際ギター・フェスティバル&アカデミー開催日前日の日曜日(6月5日)、恒例となった、デイヴィッド・ラッセル夫妻が主宰する“アフリカに飲料水の井戸を掘るNGO”の資金集めを目的としたチャリティー・ゴルフ大会が、ヤコブスベルク・ゴルフコースで開かれた。例年快晴に恵まれてきたが、今年はスタート間もなく激しい雨になり、ゴルフ場の低いところに水溜りができて池のようになってしまった。

その日の午後には、ヤコブスベルク礼拝堂でリサイタルが開かれた。演奏したのは、昨年のコブレンツ国際ギターコンクール“フーバート・ケッペル”2010で優勝したスペインのギタリスト、ラファエル・アギーレで、ちよっぴり雨に濡れ、ゴルフ用の雨傘さえ持っている聴衆全員を鼓舞するようなコンサートだった。雨の音が騒がしかったにもかかわらず、スカルラッティ〈ソナタK.141〉とギター編曲版のシューマン〈子供の情景Op.15〉の演奏が素晴らしく、テクニックも非常に印象的だった。彼は、この週末、これらの作品とJ.S.バッハ〈鍵盤楽器のためのパルティータ第1番BWV825〉編曲版などをKSG Exaudio社で録音したCDの発売記念リサイタルを開いた。

パヴェル・シュタイドル& ガヴリエラ・デメテロヴァ (Vn)

パヴェル・シュタイドルは相変わらず人気のある演奏家で、フェスティバルのオープニングを飾った6月6日(月)の彼のリサイタルでは、ヴァイオリニストのガヴリエラ・デメテロヴァと共演した。シュタイドルの独特な演奏スタイルとデメテロヴァの音楽的アプローチが、幸い同じ傾向なので、ヴァイオリンとギター

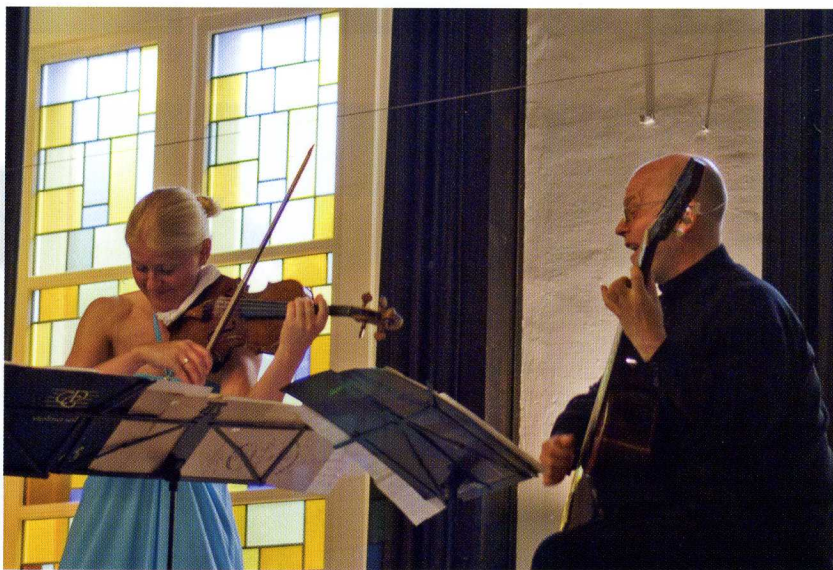
のための諸作品、ヤン・ヴァーツラフ・ヴォジーシェク〈ソナタ〉、バガニーニ〈チェントーネ・ディ・ソナタ第1番〉、ヤナ・オプロフスカ〈3つのカプリッチョ〉、カルロ・ドメニコニ〈ソナタ“River Berunka”〉など素晴らしい演奏を聴かせてくれた。2人はデュオの他に、それぞれソロ演奏も披露した。

デイヴィッド・ラッセル

6月7日(火)に開催されたデイヴィッド・ラッセルのリサイタルはとても楽しかった。ウィリアム・バード〈深い緑の森よ〉、装飾音がきれいなヘンデル〈チェンバロのための組曲第7番〉、J.S.バッハ〈シンフォニア〉のほか、彼のアルベニス作品を集めた最新CD『イサーク・アルベニス作品集』の中から数曲を選んで演奏した。

マヌエル・バルエコ&北京ギターデュオ

今年のマヌエル・バルエコは、最終日(6月13日)のマチネで、彼の弟子である北京ギターデュオの蘇萌と王雅夢とトリオを組み、セルジオ・アサド作曲の〈魅惑の



ガヴリエラ・デメテロヴァ&パヴェル・シュタイドル

